

2023年入試 A日程

正答率

二												
問一	問二	問三	問四	問五	問六	問七		問八		問九	問一〇	問一一
						7	9	※1	※2			
43	48	31	55	39	73	59	85	62	42	47	47	71

問二・五・八・九は得点率で表記しています。

問八については、前者は「自分の意見には～」、後者は「100%正しく～」の得点率です。

論理的文章

出典は、ちきりん『自分の意見で生きていこう』—「正解のない問題」に答えを出せる4つのステップ—より。筆者は、日本社会における同調圧力、「正解とされる生き方」が生きづらさの源となっていると述べている。幼い頃からの習慣で日本人は常に意見を述べるときに「正解」を求めているが、正しい意見と間違った意見という区別をしながら何が正しくて正解かを探すことは、お互いを否定することにつながってしまう。そういう生き方をやめ、「正解のない問題」に対して自分の意見を明確にすることで、周りの意見との相違も受け入れ、多様な他者に対する理解を進めるべきであると筆者は考える。そうして、自分の納得できる人生を選び、本当に幸せな生活をおくりたいと述べている。

問一 1は、空欄の直後の文から考える。「画一的」とは、何もかも一様で個性や特徴がない様子のこと。10に関しては、前段落の「確信がもてるまで、なにかについて考え尽くした経験がないのでしょうか」とあるのを「さまざまな方向から 10 に考えたうえで自分の意見を明確化できれば」と受けていることから、「徹底的（余すところなくどこまでも十分に様子）」が適当。

問二 人それぞれ、自分が楽しいと思える人生を自由に選ぶためには「幸せな生き方には様々なパターンがあり、ひとつの生き方を全員に押しつける必要はない」ことを理解することが必要である。小さな頃から他者と違う意見を表明するのはその訓練である。

問三 少し先にある、7の前後の段落において、意見が多様だということを理解していないと相手の意見を間違いとするような相互否定が起こってしまう、とあるが、その後、意見を明確にする際には、他者の意見を否定する必要はない、という筆者の意見が述べられる。このことから、意見を表明する際に「怖いこと」とされるのは自分の意見を否定される事だとわかるので、選択肢工が正解となる。

問四 筆者は「正解のない問題」に対して自分の意見を出すことを重要としている。それとは逆に、日本では「正解のある問題の正解を覚えること」を重要とする傾向があり、誰が解いても同じ正解が出ることを求める際に、多様な意見ではなく一つの正解に繋がる正しい知識を身につけようとする。そのため、ここでの正解はウとなる。これは筆者の意見とは反対の状況である。アは、日本では「正解となる生き方」がある程度定まっているというのは文中で述べておらず、その実現に知識が必要だということも不適。イは、知識によって意見を表明できない、自我のない子どもの短所を補うとあるが、筆者は多様性を認めることで意見を表明すると述べているので不適。

問五 まずは傍線部のセリフがどのようなセリフかを確認する必要がある。自分が好きなおもちゃがあるがそれでいいのかわかる自信が持てないから、「ママ、それでいい？」というように他人に確認している。つまり自分の考えを他人に正解かどうか確認している。そのような発言をするのは傍線部直後の「答え合わせを必要としない、自分の意見に自信をもてる子供」とは正反対の子供の発言であるとわかる。

問六 傍線部直前に、「日本人の多くは経験したことがありません」とあるが、それは「全員が自分の意見をもつ社会」、「それを堂々と口にする社会」のことである。傍線部の「そんな社会」を「ギスギスして住みにくい」と感じるのは、日本人がそのような社会を経験していないからであり、日本人がそのような経験をしたことがないのは、「意見は多様」ということを理解せずに、正解・間違いを決めようとするからである。

問七 7は、ここまでで説明していた内容を言い換えてまとめているので、「つまり」が入る。9の前の段落では「絶対」という言葉は自分の意見にはブレがないという意味で使うという説明をしているのに対し、9以降では自分の意見に確信を持たない人は、「絶対などありえない」と言い出すとして「絶対」を使わないことの説明をしているので、「ところが」が正解となる。

問八 「絶対」をどのように捉えているかということについては、前問の9を境にして意見が分かれている。自分の意見に自信がある人は、「自分の意見にはブレがない」という意味で「絶対」を使う。それに対して、自分の意見を断言できるレベルまで考え尽くすという経験がない人は、「絶対などありえない」として「絶対」を使わない。そういう人は「絶対」というのは正解であり、間違いが少しでもあれば「絶対」とは言えないと考える。

問九 傍線部では、人生の重要な決断に対しては、自分の意見に確信を持てるまで考え尽くす事が不可欠だと述べている。そのために必要なことは傍線部以後の部分で説明している。

問一〇 傍線部の前に書かれている、他人に反対されて気持ちがブレてしまう人は、傍線部のような人生を歩むとある。これは、自分の意見に自信がなく、正解を求めるような人の話である。そういった考えに合う選択肢はイである。アは、自分の意見をもつためにすることであるので不適。ウは、多様な意見を認めるだけでなく自分の生き方に影響させるというのは本文にないので不適。エは、好きなことはほどほどにしてというのは本文にない。また、自分を押し殺して生きていくというのも本文には述べられていない。

問一一 他人の意見を否定するのではなく、自分の好きなことは好きと言いながら、送りたい人生を送ることが幸せに繋がる。こういった筆者の主張に合う選択肢はアである。イは、「他人の意見には一切耳を傾けずに」の部分が多様性を認めるという内容と反する。ウの「他人の意見は参考として理解」や「他人にも大いに勧めて」という部分は本文にはない。エは、自分の意見を抑えて他人の意見による生き方を試すという内容が本文に反する。